

Post.Office Secure Messaging Suite コンフィグレーションガイド

マニュアル・バージョン3.9.1J

2005年3月

目次

1. Post.Office Messaging Secure Suite のインストール.....	1
1.1. 動作環境.....	1
1.2. InterScan Messaging Security Suite と連携動作させるための構成.....	1
DMZ にリレー用 MTA を置き、内部ネットワークに Post.Office を設置する場合、その間に IMSS を設置する構成や IMSS 自身を リレー用 MTA として設置する構成が可能です。.....	1
1.3. InterScan Messaging Security Suite と連携動作させるための設定.....	2
1. Post.Office 側システムコンフィグレーションの[メールルーティングオプションの設定]を行います。.....	2
2. Post.Office 側フィルターサーバの設定.....	2
3. IMSS 側受信接続の設定.....	3
4. IMSS 側受信接続制限の設定.....	3
5. IMSS 受信側のリレー管理の設定.....	4
6. IMSS 側配信方法の設定.....	5
7. IMSS 側イベントメール通知の設定.....	6
8. Post.Office 側メールキューオプションの変更.....	7
9. IMSS 側メッセージ設定の変更.....	7
10. POP Before SMTP の設定.....	8
11. SMTP 認証の設定.....	9

1. Post.Office Messaging Secure Suite のインストール

Post.Office パッケージのインストールに関しては、付属の「Intermail Post.Office Edition 3.9.1J Readme (v1.0)」を参照してください。

このドキュメントでは、Post.Office 側の設定に関して説明します。

なお、Post.Office Messaging Secure Suite の動作環境は以下のとおりとなります。

1.1. 動作環境

Post.Office を稼働させるために必要なシステムは以下のとおりです。

- ・最小メモリ：256 MB、推奨 512MB 以上
- ・最小ディスク空き領域：500MB
- ・対応 OS
 - Windows 2000 Professional/Server、Windows 2003 Server

ここでのシステムは Post.Office のみの動作環境となり、InterScan Messaging Security Suite (以下 IMSS) は含まれていません。

IMSS を動作環境としては以下のようなシステムが必要となります。

- ・CPU Intel Pentium III プロセッサ 1GHz 以上 (または同等のもの)
- ・最小メモリ：512MB、推奨 1GB 以上
- ・最小ディスク空き容量：システムディスク 200MB 以上
メッセージ処理用に 2GB 以上のハードディスク空き容量を確保することを推奨します。
(高速な RAID ディスクを推奨)
- ・対応 OS
 - Windows NT Server 4.0、Windows 2000 Server、Windows 2003 Server

また Post.Office と InterScan Messaging Security Suite を同一マシンで動作させるために必要なシステムは以下のようになります。

- ・CPU Intel Pentium III プロセッサ 1GHz 以上 (または同等のもの)
- ・最小メモリ：1GB、推奨 2GB 以上
- ・最小ディスク空き容量：システムディスク 250MB 以上
メッセージ処理用に 4GB 以上のハードディスク空き容量を確保することを推奨します。
(高速な RAID ディスクを推奨)
- ・対応 OS
 - Windows 2000 Server、Windows 2003 Server

1.2. InterScan Messaging Security Suite と連携動作させるための構成

DMZ にリレー用 MTA を置き、内部ネットワークに Post.Office を設置する場合、その間に IMSS を設置する構成や IMSS 自身をリレー用 MTA として設置する構成が可能です。

ここでは、POP Before SMTP や SMTP 認証による第三者へのリレー送信制限を利用するための構成を想定し、その設定方法について説明します。

IMSS の機能で誹謗中傷や、アーカイブなどに関するポリシー設定は、ここでは省略します。マニュアルの方を参照してください。

1.3. InterScan Messaging Security Suite と連携動作させるための設定

1. Post.Office 側システムコンフィグレーションの[メールルーティングオプションの設定]を行います。

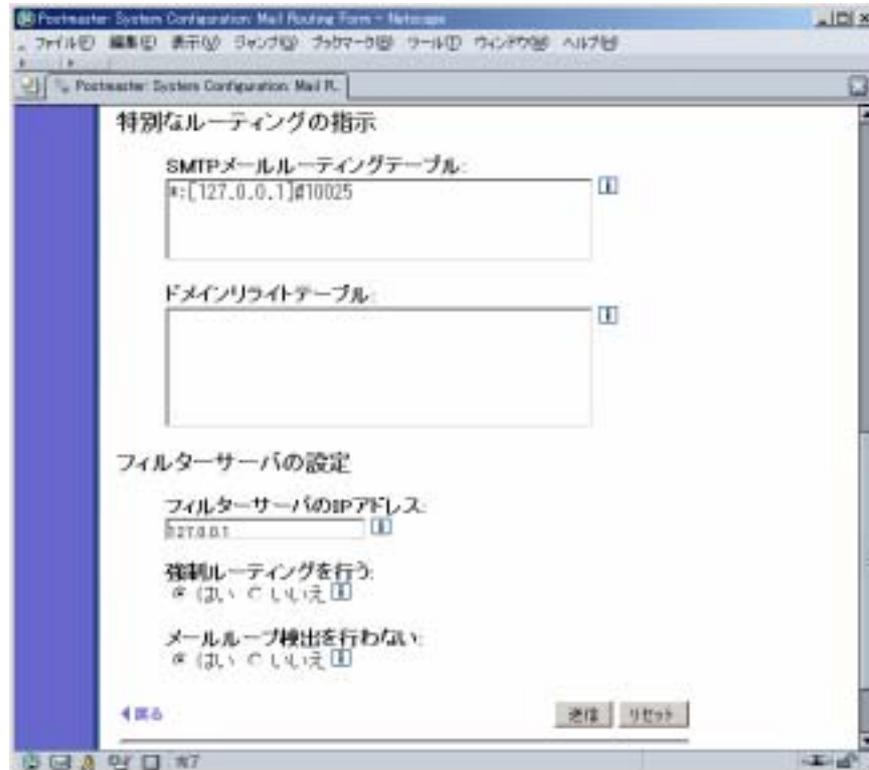


図 1

全てのメッセージをウイルススキャンさせる場合には[特別なルーティングの指示]にある[SMTP メールルーティングテーブル]に以下のように記述します。

- ・ Post.Office と IMSS を同一マシンで稼働させる場合： *:[127.0.0.1]#10025 (注 1)
- ・ Post.Office と IMSS を別マシンで稼働させる場合： *:[xxx.xxx.xxx.xxx]#10025 (注 2)

(注 1 #10025 は IMSS 側の proxy_port の受信ポート番号になります。(デフォルト値： 10025)

(注 2 xxx.xxx.xxx.xxx は、IMSS が稼働しているホストの IP アドレスです。

2. Post.Office 側フィルターサーバの設定

[フィルターサーバの設定]で次の設定をします。

- ・ [フィルターサーバの IP アドレス]： IMSS が稼働するホストの IP アドレスを設定します。
同一マシンで稼働させる場合は、127.0.0.1 です。ここでの IP アドレスは、上の[SMTP メールルーティングテーブル]で IMSS のために指定した IP アドレスです。(ここではポート番号の指定は入りません)
- ・ [強制ルーティングを行う]： [はい]に設定します。
- ・ [メールループ検出を行わない]： [はい]に設定します。

[フィルターサーバの設定]に関する説明は、「InterMail Post.Office 3.8.4J 補遺マニュアル」9章 「フィルターサーバのサポート機能について」をお読みください。

3. IMSS 側受信接続の設定

IMSS 側の接続ネットワークインターフェースとポート番号の設定を行います。



図 2

同一マシン上で稼働させる場合は、受信設定にあるサーバの IP アドレスに「すべてのインターフェース」を指定してください。Post.Office と別マシン上で動作させる場合は、Post.Office の稼働するサーバと通信するためのネットワークカードの「IP アドレス」を指定してください。(ここでは、選択による指定となります)

4. IMSS 側受信接続制限の設定

IMSS の受信側接続制限の設定では、基本的に「すべて拒否する(次のリストで指定されている場合を除く):」の設定とし、接続許可リストを編集します。



図 3

Post.Office と同一マシンで IMSS を稼働させる場合は、接続許可リストとして、127.0.0.1 のみを追加するだけで接続可能ですが、他のサーバ上で稼働させる場合は、Post.Office が稼働するサーバの Post.Office と接続するためのネットワークカードの IP アドレスを追加する必要があります。

5. IMSS 受信側のリレー管理の設定

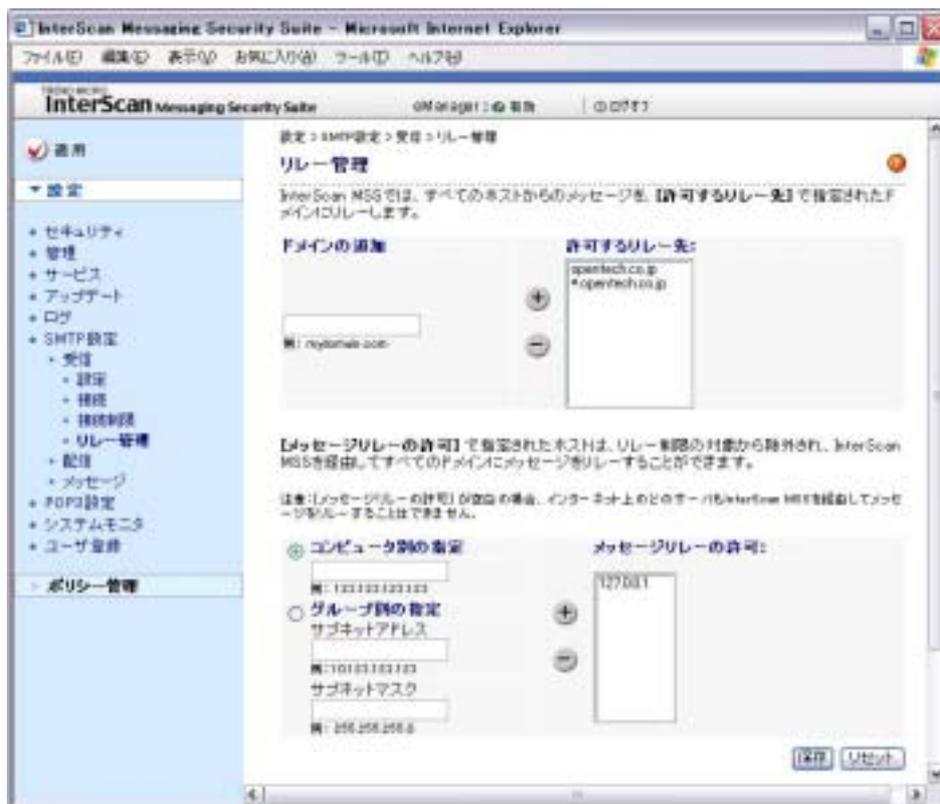


図 4

ドメインの追加で「ドメイン名」と「*.ドメイン名」を追加します。次に Post.Office と同一マシンで IMSS を稼働させる場合は、「メッセージリレーの許可:」に「コンピュータ別の指定」から 127.0.0.1 の IP アドレスを追加します。Post.Office と別マシンで稼働させる場合は、Post.Office が稼働するサーバの Post.Office と接続するためのネットワークカードの IP アドレスを追加します。

6. IMSS 側配信方法の設定

IMSS の配信方法を設定します。



図 5

SmartHost とは、指定されたドメインの配送方法を知るホストで、Post.Office と同一マシンで IMSS を稼働させる場合は、SmartHost として、127.0.0.1:25 (:25 は、Post.Office 側の SMTP ポート番号) を指定します。ドメイン名としては、インストールしたマシンの属する”ドメイン名”と”*.ドメイン名”およびその他への配送として、AllOthers を選択します。

Post.Office と別マシンで稼働させる場合は、Post.Office が稼働するサーバの Post.Office と接続するためのネットワークカードの IP アドレス:25 を 127.0.0.1:25 の代わりに登録するようにします。

7. IMSS 側イベントメール通知の設定

IMSS には、システムイベント発生時やフィルタ基準に一致するメッセージの検出時に通知メールを送信する機能があります。通知機能を利用する場合は、管理メニューの通知で設定します。



図 6

通知先の SMTP サーバの IP アドレスとポート番号を設定します。Post.Office と同一マシンで IMSS を稼働させる場合は、SMTP サーバとして、127.0.0.1 を指定し、ポート番号として 25 を指定します。Post.Office と別マシンで稼働させる場合は、Post.Office が稼働するサーバの Post.Office と接続するためのネットワークカードの IP アドレスを SMTP サーバに指定します。次に宛先アドレスを「管理者のアドレス：」に指定し、「送信元アドレス：」を任意の送信者アドレスに設定します。

8. Post.Office 側メールキューオプションの変更

次の変更は必須ではありませんが、IMSS がウイルスエンジンの自動更新や定義ファイルの更新をする間、メールがキューに溜まり、MTA が受信したメールより優先されてキュー内のメールが処理されるのを常に MTA が受信したメールを優先して処理するように変更します。(デフォルトの動作では、キュー内にメールがあると MTA で受信したメールを、直接 IMSS へ送信せず、一旦、キューに保存するようになります)



図 7

Post.Office のデフォルト設定では、「常に新規送信メール、キュー内メールの順に配信する」は、「いいえ」になっていますが、図 7 のように「はい」に変更します。

9. IMSS 側メッセージ設定の変更

メールキューオプションの変更に合わせ IMSS 側の設定も Post.Office のキュー内からのメールを絶え間なく受信できるように設定を変更します。(Post.Office では、キュー内のメールを IMSS へ送る際、一つのセッションで連続して送るため、IMSS 側の次の制限を外す必要があります)



図 8

図 8 にあるように「メッセージ」の設定で「セッションごとのデータサイズを制限する」と「接続ごとのメッセージ数を制限する」のチェックを外します。(デフォルトでは、チェックされています)

10. POP Before SMTP の設定

POP Before SMTP は、IMSS との連携において特に必須となる機能ではありませんが、利用する場合には以下の設定が必要です。

システムコンフィグレーションの[POP Before SMTP]を選択し、次の設定をします。

- ・ [POP Before SMTP を有効にする] : [[はい]]に設定します。
- ・ [認証を必要としない IP アドレス] : ここに IMSS が稼動するホストの IP アドレスを設定します。Post.Office と同一マシンで稼動させる場合は、そのホストのネットワーク上での IP アドレスと localhost である 127.0.0.1 の両方を指定します。

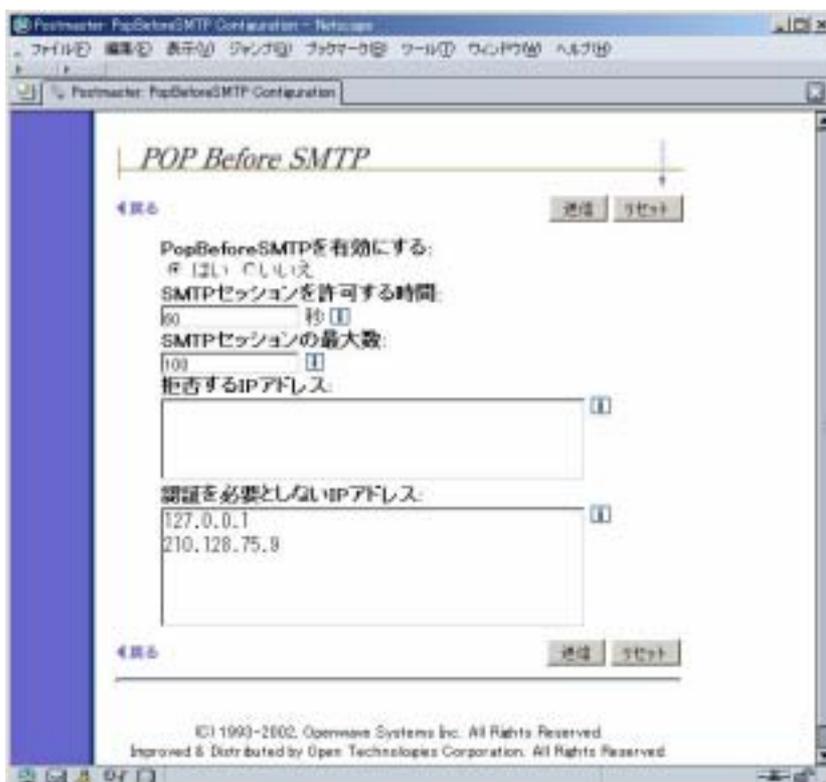


図 9

図 9 の例は、Post.Office と IMSS を同一マシンで稼働させる場合で、ネットワーク上の IP アドレスが 210.128.75.9 です。(210.128.75.9 のアドレスはあくまで参考アドレスです)

POP Before SMTP 機能を使用する際は、「メールリレーの制限」を事前に設定してください。

11. SMTP 認証の設定

POP Before SMTP 機能を使用せず SMTP 認証を用いてリレー制限を行う場合は、次のように設定してください。

システムコンフィグレーションの[SMTP 認証の設定] を選択し、次の設定をします。

- ・ [SMTP 認証を有効にする]: [はい]に設定します。
- ・ [認証されたコネクションに対してリレー制限を行う] [いいえ]に設定します。

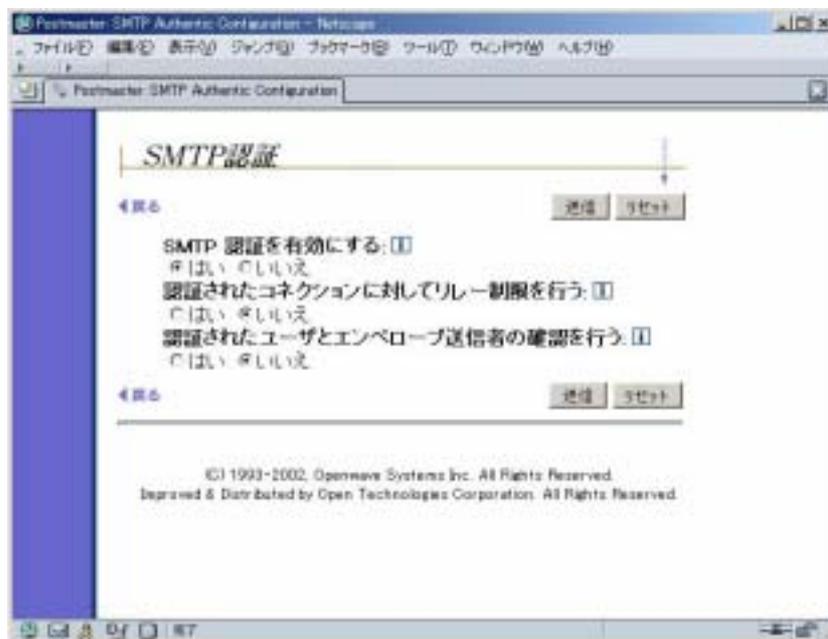


図 10

SMTP 認証内のその他の項目に関しては、「InterMail Post.Office 3.8.4J 補遺マニュアル」2章 「SMTP 認証」をお読みください。

POP Before SMTP と SMTP 認証の同時使用はできません。SMTP 認証機能を使用する場合は、POP Before SMTP 機能は無効にしてください。

[商標]

UNIXは、The Open Groupの米国およびその他の国における登録商標です。
Pentiumは、Intel Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
Windows および Internet Explorer は、Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
Sun、Solaris、Java およびすべての Java 関連の商標は、Sun Microsystems, Inc.の米国およびその他の国における登録商標です。
すべてのSPARC商標は、SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における登録商標です。
Linuxの名称は、Linus Torvalds氏の米国およびその他の国における登録商標です。
RedHat は、RedHat Software, Inc. の登録商標です。
Turbolinux は Turbolinux, Inc.の登録商標です。
Apple、Mac OS X は、Apple Computer, Inc. の米国およびその他の国における登録商標です。
Netscape Navigator は Netscape Communications Corporationの登録商標です。
本ドキュメントに記載されているその他の製品、ブランド、および会社名は、それぞれの所有者の商標、登録商標、または職標である場合があります。

(C) 1993-2002, Openwave Systems Inc. All Rights Reserved.
(C) 2002 Open Technologies Corporation. All Rights Reserved.
Improved & Distributed by Open Technologies Corporation.